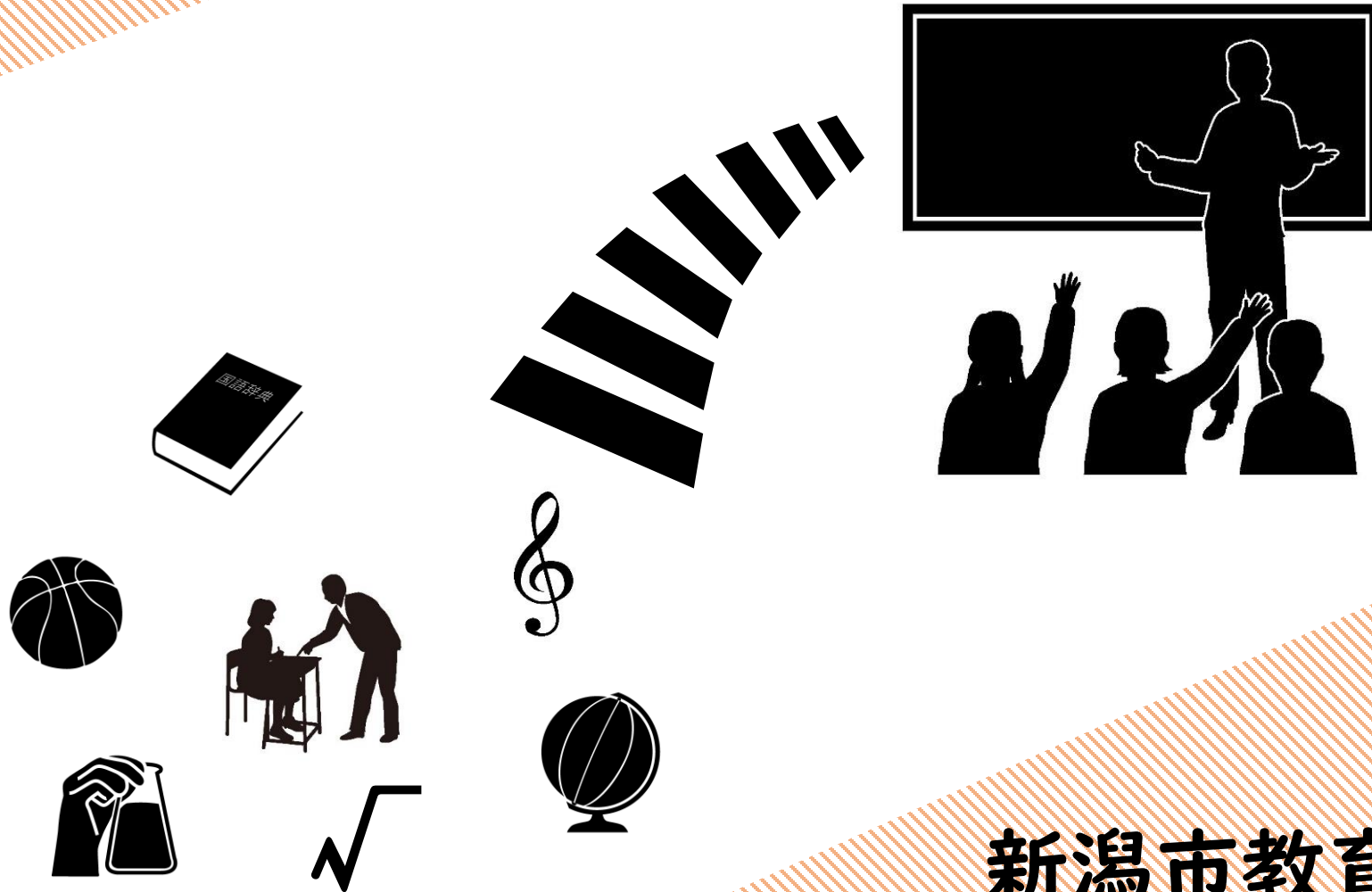


令和5年度版

新潟市マイスター一覽



新潟市教育委員会

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|----|------|-------|----------------|-------|--|---|--|--|
| 1 | 1202 | 大形小 | 西川 敦子 (教頭) | 国語 | 「個別最適化された学び」と「協働的な学び」ハイブリット授業 ロイロで単元デザイン | 子どもの実態から、培う資質・能力を設定し、学習課題を共有し、子どもとともに、単元をデザインすること。 教科書で「課題解決の仕方」を模索し、そこで得た方法を使い、各自の課題に向かうこと。 課題解決の過程で、振り返りをつなぎ、互いのニーズに合わせ、支援し合うペアやグループ対話を、試行錯誤時に取り入れること。 | ① 実態→培う資質・能力 ② デザイン(並行読書) ③ 考えの可視化 ④ 考えの共有 ⑤ 試行錯誤・対話 ⑥ 振り返り→ポートフォリオ→汎用化 | ① 小5年「私の秋は?!」(「枕草子」) ② 小3年「『変身する食べ物』のデジタルブックをつくろう!!」(「すがたを変える大豆」) |
| 2 | 1209 | 東中野山小 | 佐藤 恵美 (教頭) | 国語 | 学び合い・かかわり合い 思考力 表現力 主体的な学び 考えの視覚化 | 子どもの実態を基に、目的意識や相手意識が明確になるような単元や教材を開発する。 子どもの気付きや疑問から学習課題をつくる。 叙述されていることを根拠として説明させる。 相違点や理由を明らかにしながら話し合わせることで課題を解決させていく。 | ① 他教科・領域と関連させた単元構成 ② 主体的な学びにつながる学習課題の設定 ③ 意見の相違、理由を明確にした話し合い ④ 付けたい力と関連させたモデル文の提示 | ① 小4年「みんなで福祉新聞を作ろう」(「みんなで新聞を作ろう」) ② 小4年「報告します、みんなの生活」 |
| 3 | 1317 | 有明台小 | 滝澤 隆幸 (教諭) | 国語 | 学び合い・かかわり合い 思考力 表現力 主体的な学び 活用 考えの視覚化 発問 多様な考え | 児童が「思考・表現」「交流」「分かち合い」をして学ぶアクティブ・ラーナーとなることを目指す。そのために、シンキングツールやホワイトボード・ミーティングを用いた授業実践を行っている。そして、児童が「どのように学ぶか」に焦点化し、主体的・協働的な学びを促すことができるよう研究を継続している。 | ① 「目的意識」「追究意欲」を喚起させる仕掛けや「発問」 ② シンキングツールやホワイトボードを用いた「思考」「表現」「考えの視覚化」 ③ その上での「主体的な学び」「多様な考え」 ④ これらを土台とした「学び合い・かかわり合い」 ⑤ 指導を繰り返す中での「活用」 | ① 小5年『作品の仕掛け』を読み解こう・「注文の多い料理店」 ② 小6年『重ね読み』をしよう・「きつねの窓」「雪わたり」 |
| 4 | 1320 | 桜が丘小 | 小林 恵 (主幹教諭) | 国語 | 学び合い・かかわり合い 思考力 主体的な学び 実践的・体験的な学習 考えの視覚化 カリ・マネ | 児童に育成する力を明確にし、児童の実態をふまえて単元を貫く言語活動を設定してきた。その際、次の点を大切にしている。 ・ゴールとなる言語活動は児童が興味・関心をもち、身の回りの生活と社会とのつながりの中で「取り組んでみたい」と思える魅力のあるものにする。 ・児童に育成する力が確実に身につくように国語を中心とした教科横断的な学習をマネジメントすること。 | ① 言葉への感性を高めると共に、言葉を使って思考を組み立てる力の育成 ② 単元を貫く言語活動・教科横断的な単元構成(カリ・マネ) ③ 等質・異質の考えをもったグループの意見交流の意図的活用 ④ 相手意識、目的意識がもてる言語活動 ⑤ 並行読書による情報収集 ⑥ 実生活、実社会につながる実践 | ① 小6年「将来の夢や生き方について考えよう『プロフェッショナルたち』」 ② 小6年「町の未来をえがこう『町の幸福論』」 |

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|----|------|------|---------------|-------|--|--|--|---|
| 5 | 1321 | 紫竹山小 | 津野 航 (教諭) | 国語 | 学び合い・かかわり合い 思考力 主体的な学び 活用 考えの視覚化 評価 | 思考の流れを大切に授業づくりを心がけている。1単位時間の過程だけでなく、既習事項や前時の学びを活用して本時の課題を解決する単元構成も大切にしてきた。ホワイトボード・ミーティングなどで思考の言語化にも力を入れてきた。 | ① 主体的な学びにつながる課題設定 ② 考えの可視化 ③ 思考ツールやホワイトボードを使った「思考」「表現」「視覚化」 ④ 質の高い「振り返り」 ⑤ 単元を貫く言語活動・教科横断的単元 | ① 小5年「やなせたかしーアンパンマンの勇気」 ② 小6年「町の未来をえがこう 町の幸福論ーコミュニティデザインを考える」 |
| 6 | 1408 | 亀田小 | 山田 綾子 (教諭) | 国語 | 学び合い・かかわり合い 主体的な学び 活用 考えの視覚化 発問 | ①子どもが考えたいくなる課題 これまでの学習や生活経験、友達の考えとの「ズレ」を感じさせる課題は、子どもの学習意欲を引き出す。 ②子どもが話したいくなる場づくり 友達と自分の考えを比較して、そこに「ズレ」を見付けたとき、子どもは話し合いたくなる。そのズレを明確にするための手立てを講じることで話し合いをさらに活性化させる。 | ① これまでの学習や生活経験、友達の考えとの「ズレ」を感じさせる課題 ② 子どもの考えの可視化 ③ 似た考えの子ども同士が集団を作ったの討論 ④ 自他の考えの違いを可視化し立場を明確にする ⑤ 話し合いを収束させていくための第二発問 | ① 小3年 「主役の心の変化を読もう」(「モチモチの木」) ② 小4年 「俳句の世界を楽しもう」(伝統的言語文化) |
| 7 | 1601 | 新飯田小 | 畑 智 (校長) | 国語 | 基礎・基本 学び合い・かかわり合い 主体的な学び 思考力 表現力 その他(単元を貫く言語活動) | 単元の導入において、単元を貫く言語活動を設定し、子どもたちに提示することにより、明確に目的意識をもたせる。 更に、子どもたちが追究したいくなる課題を取り上げ、共通点や相違点について根拠を明らかにしながら話し合わせる。 | ① 国語力を鍛える日常の取組 ② 子ども意欲を高める単元を貫く言語活動の設定 ③ 学校司書と連携した並行読書の実施 ④ 読みを深めるための論点を絞った話し合い | ① 小5年 「森林について興味をもったことをしらべよう『森林のおくりもの』」 ② 小5年 「本のショーウィンドウで動物と人間のかかわりをえがいた物語を紹介しよう『大造じいさんとがん』」 |
| 8 | 1602 | 茨曾根小 | 引場 裕子 (校長) | 国語 | 学び合い・かかわり合い 思考力 表現力 実践的・体験的な学習 板書の工夫 | ①子どもの考えを生かした授業づくり わからなさを大切に、かかわり合いの中で自分の考えをもたせる。 ②学習課題の設定 多様な考えが生まれる課題を設定する。 | ① 演劇的手法の活用 物語文において、叙述だけでは読み取ることのできない内容に気付かせるきっかけとして、演劇的手法を用いることで、今まで目を向けていなかった叙述に気付かせる。その後「自分の読み方」を振り返らせることで、次に読むときの自分の読みの力を高める。 ② 板書・ノート指導 ③ 一人一人の解釈を生かす学習活動 | ① 小5年 「注文の多い料理店」 ② 小6年 「海のいのち」 |

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|----|------|------------|------------------|-------|---|--|--|--|
| 9 | 1708 | 青山小 | 伊藤 隆之 (教諭) | 国語 | 基礎・基本 学び合い・かかわり合い 思考力 表現力 主体的な学び 問題解決学習 考えの可視化 発問 多様な考え | 全員参加を保障する国語科授業づくりに挑戦している。「読むことが苦手」(情報の入力面の課題)、「書くことが苦手」(情報の出力面の課題)、更に「かかわって学ぶことが苦手」(ソーシャルスキルの課題、情報の処理の課題等)、これらの困り感をもつ児童がいる学級で、国語科ではどのようなアプローチができるかを研修している。 | ① 考えたくなるような導入 ② 自分の立場、理由、理由を支える根拠(叙述)を明らかにするノート指導 ③ 児童の考えの共通点・相違点の視覚化 ④ 交流による自分の考えの更新(複数の根拠・理由をもとに考えを再構築したり、新たな観点を獲得したりする)と振り返り | ① 小3年「俳句に親しもう」 ② 小4年「家族やふるさとを思う心をえがいた本を読もう」(「世界一美しいぼくの村」) |
| 10 | 6301 | 高志中等教育学校 | 藍澤 まき子 (教諭) | 国語 | 学び合い・かかわり合い 考えの視覚化 発問 多様な考え | 生徒同士が自分の考えを交流し合うことで、考えを広めたり深めたりしていく。「重ね読み」や「比べ読み」の課題を設定することで、自分の考えをもたせる。 「叙述」を根拠に理由付けて自分の考えを説明し合うことで、異なる考えがどこに起因しているのかを明確にする。 | ① 自分の考えをもたせるための重ね読み・比べ読み ② 叙述・理由付け・自分の考えを明確にする論理的思考 ③ 全員参加や考えを視覚化するためのファシリテーション | ① 中3年「芭蕉の旅への思いを考えよう」(「おくのほそ道」) ② 中2年「解釈を交流し合い、多様な読みを広げよう」(「ジーンズ」) |
| 11 | 行政 | 南区教育支援センター | 小菅 美穂子 (指導主事) | 国語 | 学び合い・かかわり合い 思考力 表現力 主体的な学び | 児童に付けたい力を明確にすること。ねらいを達成するのに有効な言語活動、児童の思考を促すモデル文などの教材を吟味した。学びを深めるための多様な交流方法を探ってきた。 | ① 気付かせたいことを焦点化したモデルの提示 ② 共有した学びを自分の表現に生かす手立て ③ ノート展覧会や付箋を活用した学び合い ④ 他教科との関連(体験と結びつけた単元構成) | ① 小6年「地域の未来予想図を発信しよう」 ② 小6年「人生の先輩からのメッセージを受け止め『プロフェッショナル』を作ろう」 |
| 12 | 1106 | 葛塚東小 | 佐藤 昌寿 (教頭) | 社会 | 学び合い・かかわり合い 主体的な学び 問題解決学習 考えの視覚化 | 児童の既有的知識や生活経験、想定とズレを生む資料を提示し、比較させる。そのことで生じる問いをかかわらせ、学習課題を設定していく。 児童相互のかかわり合いを重視し、個々に調べたり考えたりした内容を比較検討させ、社会的事象に対する見方や考え方を育てる。 | ① 既有的知識とのズレを生ませる発問・資料提示 ② 予想を基に見通しをもった調べ活動 ③ 児童相互のかかわり合いを重視した学習活動 ④ 考えの視覚化 | ① 小5年「暮らしを支える情報」 ② 小6年「身近な暮らしと政治」 |

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|----|------|-------|---------------|-------|------------------------------|--|---|--|
| 13 | 1204 | 木戸小 | 貝沼 浩晃 (校長) | 社会 | 思考力 発問 多様な考え | 資料を深く読み取らせることで、子どもから「どうしてかな?」「なぜかな?」という疑問を引き出すことができる。それを学習課題として、子どもに考えさせる。 別な角度から見てみたり、結び付けて考えたりして多面的多角的に考えさせ、新しい社会的な見方・考え方に到達させる。 | ① 資料の読み取り技能を鍛える。 ② 「思考のズレ」を生む発問や資料提示 ③ じっくりとノートに書く→ノート指導 ④ 子どもの話し合い→話し方・聞き方 ⑤ 新しい社会的な見方・考え方を育てる。 ⑥ 社会の見えることから見えないことへ | ① 小6年「平和で豊かな暮らしをめざして」 ② 小5年「自動車工場をたずねて」 |
| 14 | 1304 | 白山小 | 高橋 裕幸 (教頭) | 社会 | 学び合い・かかわり合い 思考力 問題解決力 | 既有的な知識や経験、想定とのずれを生む資料提示を行い、児童の興味・関心を高め、学習課題を設定する。個で調べ、考えた内容を基に、かかわり合いを重視した活動を行い、社会的な見方や考え方を育てる。 | ① 既有的な知識や経験、想定とのずれを生む資料提示 ② 児童の興味・関心を高め、児童のつぶやきや発言を基に学習課題の設定 ③ 予想を基に見通しをもった調べ活動の設定 ④ 児童相互のかかわりを重視した学習活動 ⑤ 授業を振り返り学習内容の定着と学びの自覚を促す学習のまとめや振り返りの働きかけ | ① 小5年「暮らしを支える情報」 ② 小6年「戦争と人々の暮らし」 |
| 15 | 1310 | 万代長嶺小 | 鈴木 貴之 (教諭) | 社会 | 思考力 問題解決学習 発問 | ①「子どもが作る学習問題」 単元を通して解決する学習問題を子どもが作ることで常に既習をもとに考える姿を生み出す。 ②「子どもが深い学びを獲得する授業」 子ども一人一人の意見を大切にし、それぞれの考えを子ども同士が比較・分類し、整理することで深い学びが獲得できるような授業づくりを大切にしてきた。 | ① 追究したくなる単元を貫く学習問題 ② 既習をもとにつくる学習課題 ③ 問題解決学習の授業デザイン ④ ストーリー性のある各単元のつながり ⑤ 授業後半での思考のトリガー | ① 小5年「これからの食料生産」 ② 小5年「環境をともし守る」 |
| 16 | 1320 | 桜が丘小 | 橋本 忍 (教頭) | 社会 | 学び合い・かかわり合い 思考力 問題解決学習 | 知識や経験とのズレを生むような資料を提示したり、発問を工夫したりすることで、子どもが追究したくなるような学習課題を設定する。また、予想や調べたことをもとに、話し合いながら課題を解決する活動を設定することで、社会的な事象に対する見方や考え方を育むことを目指す。 | ① 子どもの興味、関心を高める視覚資料を用いた導入 ② 知識や経験とのズレを生む資料、発問 ③ 予想したことを確かめる調べ活動 ④ かかわり合いながら社会的な事象に迫る授業展開 ⑤ 社会的な事象のとらえを確かにするまとめと振り返り | ① 小6年「戦争と人々の暮らし」 ② 小6年「平和で豊かな暮らしを目指して」 |

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|----|------|-----|---------------|-------|------------------------------------|--|--|---|
| 17 | 1409 | 早通小 | 竹内 久勝 (教諭) | 社会 | 思考力 問題解決学習 発問 | <p>既存の知識や生活経験とズレの生じる資料を提示し、問題意識をもたせる。学習課題解決に際し、自分なりの考えをもたせた後、ホワイトボード等を用いた小グループでの交流を設定し、個々の考えや調べを相互に検討させる。</p> | <p>① 既存知識を基に興味関心を高める導入 ② 予想を基に見通しをもった調べ活動 ③ 小グループを活用し、考えを交流し合う場の設定 ④ キーワードを使ったまとめ ⑤ 歴史分野における地域素材の積極的活用</p> | <p>① 小6年「戦争と人々の暮らし」 ② 小6年「身近な暮らしと政治～まちづくりビジョンとわたしたちの暮らし～」</p> |
| 18 | 1603 | 庄瀬小 | 三浦 直之 (教頭) | 社会 | 基礎・基本 問題解決学習 活用 その他(教材開発) | <p>児童が強い疑問や問題をもつ教材を使って、興味関心を高めて学習問題を作り上げる。 更にその学習問題を解決するために必要な資料を提示し、比較・関連付けなどの思考の方法を活用させて問題解決する力を鍛える。学習したことをキーワードでまとめさせる。</p> | <p>① 興味関心をもたせる導入 ② 学習問題づくり ③ 比較・関連付けて考えさせる ④ 考えをかかわらせる ⑤ キーワードを使った学びのまとめ</p> | <p>① 小3年「アザレアを作る仕事」 ② 小4年「火事をふせぐ」</p> |
| 19 | 1703 | 内野小 | 荒木 学 (教頭) | 社会 | 学び合い・かかわり合い 思考力 主体的な学び | <p>生活経験や知識の少ない児童でも、社会的事象について豊かにイメージできるように視覚に訴える資料提示を行い、全員の関心や問題意識を高める。 「調べる活動」と「考える活動」を設定し、調べて得た知識を基に考える授業を構想する。終末のまとめや振り返りで、学びの深まりを自覚させる。</p> | <p>① 児童の関心や問題意識を高めるための、事実とのインパクトのある出会いの設定・演出 ② 予想を基に、見通しをもった調べ活動の設定 ③ 多面的・多角的に考えさせるための発問や資料提示 ④ 学習内容の定着と学びの自覚を促す、まとめや振り返りの働き掛け</p> | <p>① 小6年「江戸の社会と文化・学問」 ② 小6年「戦争と人々の暮らし」</p> |
| 20 | 1715 | 大野小 | 山下 信孝 (教頭) | 社会 | 学び合い・かかわり合い 主体的な学び 問題解決学習 | <p>子どもが興味をもつような資料提示を行った後、ズレを生むような発問をしたりして、学習課題を設定する。課題に対して調べた内容を、ペアやグループ、全体でかかわりあいながら、考えを整理したり分類したりする。</p> | <p>① 子どもが興味や関心をもつような導入 ② ズレを生むような発問 ③ 比較する、関係づけるなどの思考の方法の活用 ④ 互いの考えを整理、分類させるためのかかわり合いのさせ方</p> | <p>① 小3年「火事からまちを守る」 ② 小6年「戦争と人々の暮らし」</p> |

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|----|------|-------|---------------|-------|---|--|---|---|
| 21 | 1805 | 升漏小 | 西塚 智行 (教頭) | 社会 | 学び合い・かかわり合い 問題解決学習 発問 その他(地域教材の 開発) | 「どっち?」を問うことで、児童は自然と思考し始める。学習課題が切実で社会ジレンマを含んでいることにより、課題を自分のこととして受け止め、さらに事実を別の見方で見たり、友達の意見と結び付けたりして多面的に考えるようになる。 このような授業を通し、社会的な見方や考え方を育てる。 | ① ねらいに迫るための教材開発 ② 子どもの興味・関心を高める教材提示 ③ 社会ジレンマを取り入れた学習問題づくり ④ ズレや困り感に着目した話し合い ⑤ 社会的な見方や考え方を広げたり、深めたりする学びのまとめ | ① 小6年「新しい時代の幕開け」 ② 小6年「憲法と私たちの暮らし」 |
| 22 | 1810 | 中之口西小 | 小林 亨 (教頭) | 社会 | 基礎・基本 思考力 問題解決学習 多様な考え | 「調べる活動」と「考える活動」を設定し、調べて得た知識をもとに考える授業を構想する。終末のまとめや振り返りで、学びの深まりを自覚させる。 | ① 思考や経験とのズレを生じさせる。 ② 解決への見通しや予想をもたせる。 ③ 既習事項や生活経験と比較・関連付けさせながら思考させる。 ④ 互いの考えをかかわらせ、整理・分類させる。 ⑤ 互いの考えを共有し、社会的な見方や考え方を広げたり深めたりさせる。 | ① 小5年「工業生産を支える人々」 ② 小6年「私たちの願いの実現に向けてー暮らしの中の政治ー」 |
| 23 | 1811 | 越前小 | 高井 進一 (教頭) | 社会 | 体験的・作業的な学習 活動 授業のUDL化 | 児童が問題意識をもち、「調べたい・考えたい」と思う学習課題を設定する。調べたり、考えたりする際には、視覚に訴える資料の活用や体験的・作業的な学習活動を取り入れる。学級の多くの児童が「楽しく・分かる・できる」社会科授業を目指す。 | ① 実感を伴った理解をさせるための視覚に訴える資料の提示 ② 実感を伴った理解をさせるための体験的・作業的な学習活動 ③ 特別支援を要する児童を授業へ引き込むための授業づくりや支持的学級風土の育成 | ① 小5年「水産業のさかんな地域」 ② 小6年「近代国家を目標して」 |
| 24 | 2301 | 関屋中 | 長谷川 淳 (教頭) | 社会 | 基礎・基本 学び合い・かかわり合い 表現力 主体的な学び | ・ペア活動によるチャイム学習 ・どの子も課題をつかみ、「分かる」を目指すためのICT機器の活用 ・思考のズレを生む資料提示 ・ペアや小集団による教科書を活用した活動 ・追究時間の保証 ・社会的な事象を自分事として捉えられる単元デザイン | ① 子どもの実態に即したねらいにせまるための教材開発 ② 子どもの興味・関心を高める教材提示 ③ 思考のズレによる困り感解消を目的とした学習課題の設定、調べ学習、話し合い、まとめ、振り返りというフレームワークの徹底 ④ 社会的な見方・考え方を働かせることを軸とした単元デザイン ⑤ 単元を通して、ストーリー性のある授業展開 | ① 中2年「関東地方」 ② 中3年「選挙の意義と課題」 |

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|----|------|----------|----------------|-------|--|--|---|---|
| 25 | 6301 | 高志中等教育学校 | 川本 慎一 (教頭) | 社会 | 表現力 主体的な学び 考えの視覚化 | 授業導入時にパワーポイント等を活用し、生徒の興味・関心を充分高めて、学習課題を設定する。 展開場面や終末場面では、思考内容を視覚化するワークシートを活用し、自分で考えた内容を記述させたり、発言させたりする表現活動を設定する。 | ① 生徒の問いを活かした学習課題づくり ② 新しい見方や考え方に気付かせるための、かかわりの場の設定 ③ 学習した過程が分かる構造的な板書 ④ 授業を振り返り、学習内容の定着を図る終末の工夫 | ① 中3年「司法権の独立と裁判（公民的分野）」 ② 中1年「武士の台頭と平氏政権（歴史的分野）」 |
| 26 | 1106 | 葛塚東小 | 安立 徹 (教諭) | 算数 | 学び合い・かかわり合い 多様な考え | 児童が興味をもって追究できるよう、解いてみたいと思える課題を設定し、課題の提示も工夫する。 課題提示に際しては、言葉だけでなく具体物を提示するようにして、課題の把握を容易にする。 また、多様な考えを生み出せるような課題を設定し、考えを理解し練り上げていくようなかかわりを組織している。 | ① 「問い」を生む場面設定、教材提示の工夫 ② 見通しを共有してからの自力解決 ③ 補完し合う話し合い活動 ④ 考えの練り上げ、一般化 ⑤ 考えの変容や自己の学びを自覚させる振り返り | ① 小4年「がい数～ハロウィンパーティーの買い物しよう～」 ② 小6年「比例～ともなって変わる量～」 |
| 27 | 1305 | 新潟小 | 三浦 智恵子 (教諭) | 算数 | 学び合い・かかわり合い 思考力 主体的な学び 問題解決学習 活用 | 子どもたちに課題意識をもたせるために、問題場面の設定や提示の工夫を行っている。 子どもたちが主体的に課題とかかわり、友達とかかわって学びを深める授業を目指し、実践を重ねている。 | ① 単元を通した学習テーマに沿った指導計画 ② 課題意識を引き出す問題の設定・提示の工夫 ③ ペアや全体でのかかわり合い ④ 児童の考えを整理する板書 ⑤ 自分の学びを実感できる振り返り | ① 小3年「まるい形を調べよう」（円と球） ② 小3年「分数レストランによるこそ」（分数） |
| 28 | 1313 | 上所小 | 船山 諒子 (教諭) | 算数 | 学び合い・かかわり合い 思考力 表現力 主体的な学び 発問 多様な考え | 子どもが「解きたい」「考えたい」「話したい」と意欲をもって取り組めるように、子どもの問いを生かした学習課題の設定や、教材の提示方法の工夫をする。また、子どもが、自己内対話や他者間会話を通して、解決する楽しさを実感し、学びを深める授業を目指す。 | ① 子どもの問いを生むための教材提示の工夫 ② 子どもの問いを生かした学習課題の設定 ③ 見通しをもたせる工夫 ④ 自力解決（自己内対話） ⑤ かかわり合い（他者間対話） ⑥ 全体の考えの共有とまとめ ⑦ 学びを自覚するための振り返り | ① 小4年「概数」 ② 小5年「図形の面積」 |

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|----|------|--------|----------------|-------|---|--|--|--|
| 29 | 1707 | 笠木小 | 佐藤 晶子 (教頭) | 算数 | 基礎・基本 学び合い・かかわり合い 思考力 表現力 | 既習との違いが分かるように教材を提示し、子どもたちが解いてみたいと意欲をもてる授業構成を心掛けてきた。 自分の考えを表現し、他とかかわって解決していく楽しさを感じられる授業を目指す。 | ① 既習と比較し課題を見付けられる教材の提示の仕方 ② 解決の見通しをもつためのかかわり ③ 式・図・言葉を用いた意見の共有と比較検討 ④ 考えを深めたり広げたりできる学び合いの場の工夫 | ① 小2年「三角形と四角形」 ② 小2年「かけ算(3)」 |
| 30 | 1713 | 西内野小 | 大門 克寿 (教頭) | 算数 | 主体的な学び 問題解決学習 考えの視覚化 多様な考え | 児童の課題解決意欲に火をつけるために、問題場面や教材提示の仕方を工夫する。多様な考え方を生み出すために、問題の設定や数値を工夫する。また、全員に解き明かす楽しみを味わわせるために、「分からない」という言葉を引き出し、考えや意見を繋いで課題解決にあたらせる。 | ① 課題解決意欲を高める教材提示の工夫 ② 自力解決させるための見通しのもたせ方 ③ 図・式・言葉を関連させた表現 ④ 多様な考え方の統合 ⑤ 学習内容・変容・情意を自覚させる振り返り | ① 小5年「図形の面積」 ② 小5年「体積」 |
| 31 | 1719 | 新通つばさ小 | 小林 由希恵 (校長) | 算数 | 学び合い・かかわり合い 思考力 表現力 | 学びの主体を子どもにおいて授業を構想する。子どもが課題意識をもち、主体的に対象とかかわることができる数学的活動を工夫する。じっくりと考える場、考えたことを表現する場、かかわり合って学ぶ場を通して、分かる喜びや学ぶことの楽しさを実感できるようにする。 | ① 問い(課題意識)を醸成する提示 ② 思考力・表現力を育む数学的活動 ③ 板書・ノートの効果的な活用と学びの見える化 ④ かかわり合って学んだことを実感できる振り返り | ① 小3年「三角形」 ② 小2年「水のかさ」 |
| 32 | 1809 | 中之口東小 | 林 なおみ (校長) | 算数 | 思考力 表現力 主体的な学び 問題解決学習 活用 多様な考え | 子どもが主体的に算数の知識を獲得する思考様式として、「発見的推論」としての帰納的推論、類比的推論に注目して授業づくりを進めてきた。 また、教師の授業力量形成について関心をもち、授業分析や、協議会の談話分析などを取り入れた実践研究に取り組んでいる。 | ① 課題: 数学的なよさ・美しさを内包する課題 ② 見通し: 子どもの直感を引き出し生かす ③ 解決過程: 帰納的推論、類比的推論の展開 ④ 知識の構成: 操作、図、式などの表現様式の変換を促す言語活動 ⑤ 共有化: 質的な多様性に方向付けるまとも | ① 小3年「三角形・二等辺三角形と正三角形の定義」 ② 小4年「面積・複合図形の求積」 |

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|----|------|-------|---------------|-------|---------------------------------|--|--|--|
| 33 | 1813 | 巻南小 | 市川 啓 (校長) | 算数 | 学び合い・かかわり合い 問題解決学習 考えの視覚化 | 子どもの身のまわりにある日常の事象を課題とする。解決の手助けになるような教具を使い算数的活動をしながら自力解決に向かわせる。 話し合いでは、その考え方が『条件を変えても使えるか』等を検討し一般化することで数理的な処理のよさに気付かせる。 | ① 「問い」を生む課題を提示する。 ② 既習の数学的な考え方を想起させ、自力解決に向かえるよう見通しをもたせる。 ③ 簡単な場合で全員が解決できる場面へ戻る。 ④ 条件を変えて課題に取り組む。 ⑤ 発表で考えを整理する。数や図の美しさやリズム・簡潔さ等の感動を「よさ」としてまとめ本時のねらいに迫る。 | ① 小5年「割合ってなあに？」 (割合) ② 小4年「角ってなあに？」(角) |
| 34 | 2302 | 鳥屋野中 | 皆川 宏志 (校長) | 数学 | 主体的な学び 問題解決学習 活用 | 数学に自信をもたせる成功体験重視の指導。学習者の学力実態を考慮した学習課題を開発すること。 学習者の思考を促す発問を工夫することを通して、演繹的に説明することのよさや数学の有用性を実感できるような授業を目指す。 | ① 課題解決意欲を高める工夫 ② 数学的なよさや数の実感を伴う課題の開発 ③ 予想を生かした授業展開 ④ 数学的に表現する力の育成 | ① 中3年「二次方程式の利用」 (無理数の存在感) ② 中3年「三平方の定理」(定理の逆の利用) |
| 35 | 2305 | 新潟柳都中 | 長部 賢 (教諭) | 数学 | 基礎・基本 主体的な学び その他(ICT活用) | 生徒が興味関心をもって授業に取り組めるように課題設定を工夫する。 既習事項を活用し、新たな知識・技能を獲得していくよう授業を構成する。また、課題解決に向けて、積極的にICTを活用する。 | ① 生徒が興味関心をもつ課題の設定 ② 課題解決に向けた教材の活用 ③ 新たな学びと既習事項との関連付け ④ 考えの交流 | ① 中1年「平面図形」 ② 中3年「関数 $y=ax^2$ 」 |
| 36 | 2307 | 宮浦中 | 渡部 陽平 (教諭) | 数学 | 学び合い・かかわり合い 主体的な学び 問題解決学習 | 子どもが自らの学びを深めるためには教材や他者との関わりは欠かせない。提示する教材や教師の発問・指示が適切であると子どもは教師が意図しなくても主体的に関わるようになる。 授業が子どもにとって主体的に関わる学びの場になるような環境(教材、課題提示、発問、授業の規範や風土など)とは何かについて実践を通して追究している。 | ① 生徒が学習内容のつながりを意識し、既習を生かして解決に向かう課題の設定 ② 生徒が数学的な見方・考え方を働かせることを意識できる場面の設定 ③ 生徒の理解を促す小集団での話し合いの工夫 ④ 生徒が自分の考えの理由や根拠を明確にし、説明する場面の設定 | ① 中1年「変化と対応」 ② 中3年「平方根」 ③ 中3年「相似な図形」 |

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|----|------|----------|-----------------|-------|-------------------------------------|---|---|--------------------------------------|
| 37 | 2705 | 小針中 | 渡部 智和 (教頭) | 数学 | 思考力 表現力 活用 多様な考え | 既習事項と新たに学ぶ学習内容とのギャップを明らかにして、そのギャップを埋めるための教材構成を重視してきた。 どの生徒にも学ぶ意欲をもたせられるように導入を工夫し、「類推」「対比」「帰納」といった数学的な考え方を重視し、生徒が課題解決に主体的に取り組めるようにしている。 | ① 問題意識の醸成 ② 数学的活動を組織する工夫 ③ 応答の分布を明確にした交流・検討 ④ 「類推」「対比」を用いた課題設定 | ① 中1年「平面図形」 ② 中2年「一次関数の利用」 |
| 38 | 行政 | 教育総務課 | 山口 靖博 (副参事) | 数学 | 学び合い・かかわり合い 実践的・体験的な学習 多様な考え | 教材提示の工夫やヒントコーナーを設けることなどで、生徒同士の自然なかかわり合いが生じるようにする。 また、生活経験や直感を大切にして解を吟味する必要性を感じさせたり論証に対する関心を引き出したりする。 これらにより、論理的に考察する基礎を培ったり、自分への自信を深め、学習意欲を向上させたりできる。 | ① 生徒の自然なかかわり合いを生むヒントコーナーの設置 ② 考えの根拠の見通しをもちやすい教材の工夫 ③ 他者とのかかわりを通して自分の考えを確かめたり違う考え方の良さに気付いたりする。 | ① 中1年「不等式」「平面図形」 ② 中3年「関数」 |
| 39 | 行政 | 総合教育センター | 竹内 直也 (指導主事) | 算数 | 学び合い・かかわり合い 思考力 表現力 主体的な学び | 数や図形に積極的に働き掛ける児童の姿を生むことが大切である。教材の内容や提示方法を工夫し、児童の問いを生かして学習課題を設定する。また、子ども同士の対話を創出し、個々の追究の関連付けを促し、深い学びを具現する。 | ① 問いを生かした学習課題の設定 ② 追究の焦点化・連続化を図る授業展開 ③ 個々の追究の関連付けを促す対話の創出 ④ 学びの自覚化を促す適切な振り返り ⑤ 追究過程が分かる構造的な板書 | ① 小2年「かけ算」 ② 小2年「三角形と四角形」 |
| 40 | 1318 | 南万代小 | 竹内 義雄 (教頭) | 理科 | データ活用を通じた、個別最適な学習の手立てを探る | 教材(実物に沿わせる。事実)に忠実にする) 子どもにとっての壁の提示 ○壁の要件として ・子どもが考えない事実 ・日常で日頃目にしているが気にされていない事実 ・子どもの手で解決できる学習課題 ○観察・実験を子どもの手で行わせる技能訓練 | ① 子どもにとって解決容易な事実の提示 ② 子どもにとって壁となる課題の提示 ③ 課題に対する予想を問う ④ 解決の方途を問う ⑤ 分析を通して考えたことを問う | ① 小5年「メダカを育てよう(冬)」 ② 小4年「ものの温まり方」 |

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|----|------|-------|---------------|-------|--|--|---|---|
| 41 | 1406 | 東曾野木小 | 澤栗 賢一 (教頭) | 理科 | 思考力 表現力 主体的な学び 問題解決学習 考えの視覚化 | 児童の思考の流れに沿った問題解決的な過程を重視する。問題の発見では、自然事象を比較提示することで、問題を見出させる。予想では、既習事項や生活経験を想起させることで、根拠のある予想をさせる。観察・実験では、自分の予想を確かめる観察・実験に取り組ませることで、主体的に活動させる。考察では、観察・実験結果を整理することで、課題に対しての結論を導かせる。 | ① 問題解決の能力 ② 既習事項や生活経験を基にした、既にもっている見方や考え方の表現 ③ 観察・実験結果を基にした、科学的な見方や考え方の表現 ④ イメージ図やモデル図を用いた児童の見方や考え方の視覚化 | ① 小4年「もののあたままり方」 ② 小6年「電気の利用」 |
| 42 | 1702 | 新通小 | 山田 淳 (教頭) | 理科 | 基礎・基本 活用 発問 その他(科学的思考力の育成) | 子どもたちの意欲を引き出す活動から、教師の発問で仮説を作る。仮説を検証するために、実験する場の条件を考え、実験を行い記録する。実験結果が適切かどうかを再考する活動を設定しながら、分かった事を明確にしていく。 また、習得した「実験を考える力」を活用して、自分の力で課題解決に挑戦できる場面を作っていく。自分の考えを文章化するための系統的指導を行う。 | ① 全員を引きつけ、巻き込む導入 ② 変化のある繰り返しで、気付かせる。 ③ 気付いたことを活用する。 ④ たっぷりと物とかかわらせる。 ⑤ 驚きやずれを生じる事象の活用 | ① 小3年「風やゴムのはたらき」 ② 小5年「風で運ばれる植物の種子」 ③ 小6年「電気の利用」 |
| 43 | 2106 | 岡方中 | 川上 辰朗 (教諭) | 理科 | 学び合い・かかわり合い 思考力 問題解決学習 考えの視覚化 | 素朴概念と“ズレ”を生む課題を提示し、生徒の問題意識を高める。既習事項を根拠とした仮説をもとに話し合い、それぞれの仮説の主張の違いを明確にした後、検証実験を行うことで理解を深められるようにする。また、教材提示や話し合いの場面でのICTの活用方法を工夫している。 | ① 素朴概念と“ズレ”を感じさせる課題 ② 既習事項を根拠とした仮説づくり ③ 仮説のイメージの可視化 ④ 仮説をもとにした話し合い ⑤ ICTの活用 | ① 中1年「物質の融点と沸点」 ② 中2年「葉のつくりとはたらき」 |
| 44 | 2401 | 大江山中 | 眞田 和徳 (校長) | 理科 | 学び合い・かかわり合い 思考力 問題解決学習 多様な考え | 科学的に思考することに苦手意識をもっている生徒に対して、課題提示や教材、学習形態などを工夫して、意欲的に学習に取り組むようにする。 必ず自分なりの予想や考えをもって観察・実験を行わせる。 | ① 興味・関心を高める事象の提示 ② 生徒の実態に合った学習課題の設定 ③ 自分なりの考えをもたせる。 ④ 学習形態を工夫した学び合いで考えを深める。 ⑤ 観察・実験による検証 | ① 中3年「運動とエネルギー」 (力学的エネルギー保存の法則) ② 中3年「地球と宇宙」(四季の星座の見え方) |

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|----|------|---------|-----------------|-------|--|--|---|--|
| 45 | 2406 | 亀田西中 | 北 竜征 (教頭) | 理科 | 学び合い・かかわり合い 問題解決学習 実践的・体験的な学習 教材提示 | 興味・関心をもたせるために、身近な素材を使用しながら、既習事項を基にした、課題解決的な授業づくりを行ってきた。また、自分の発見を自分の言葉で交流させるために、生徒一人一人に課題を追究する時間と場を設定できるように工夫した。さらに、特別に配慮を要するような生徒に対して適切な言葉掛けや支援を行い、学習に最後まで全員参加させることを心掛けた。 | ① 興味・関心をもたせる意図的な教材提示 ② 生徒の問題意識を基にした学習課題の設定 ③ 自分の考えをもたせる ④ 課題解決に向けた生徒同士の交流 ⑤ 観察・実験による検証 | ① 中1年「変動する大地」(マグマからできた火山灰) ② 中3年「化学変化とイオン」(酸・アルカリの正体) |
| 46 | 2706 | 五十嵐中 | 中村 直貴 (主幹教諭) | 理科 | 基礎・基本 思考力 主体的な学び 問題解決学習 活用 | 問いをもつことができるような事象の提示をすること。問いをもった児童が、主体的な観察や実験、話し合いを通して、科学概念を形成すること。また、理科を学ぶ楽しさや生活とのつながりを感じられるようにすること。 | ① 児童に問いをもたせための事象の提示 ② 予想や仮説を確かめるための実験計画の作成 ③ 分かりやすい実験、教材の工夫 ④ 観察や実験の結果を基にした科学的な考察と結論の導出 ⑤ 実生活と理科学習の関連 | ① 小5年「流れる水の働き」 ② 小6年「月の形と太陽」 |
| 47 | 2803 | 潟東中 | 小田 一郎 (校長) | 理科 | 学び合い・かかわり合い 問題解決学習 実践的・体験的な学習 その他(教材開発) | 生徒の生活体験や身近な現象から課題を設定する。「なぜ?どうして?」という思考の連続性をもたせたり、生徒の興味・関心を高めたりするため、教材開発や課題提示を工夫する。観察・実験や考察の場面では、班内の役割分担を明確化し、全員がかかわり合える場をつくる。 また、思考の過程をノートやワークシートに書く活動と互いに比較検討できる話し合い活動を重視する。 | ① 生徒の生活体験や身近な現象を使った教材開発 ② 課題の明確化と仮説づくり ③ 仮説検証など、目的をもった観察・実験 ④ 結果に基づく考察(個人→班での話し合い活動→個人) ⑤ 科学的根拠に基づいた、実感を伴った結論 | ① 中2年「電流とそのはたらき」(電流と磁界) ② 中3年「月の運動と見え方」(月の満ち欠けと周期性) |
| 48 | 行政 | 食と花の推進課 | 村山 尚士 (指導主事) | 理科 | 基礎・基本 問題解決学習 発問 | 生活経験や既習内容及び意図的な事象提示から、問いをもたせ、学習課題を作成する。そして、学習課題を解決できる見通しがもてる観察・実験を行わせる。結論は、観察・実験の結果から考えられる学習課題の答えであることを意識させ、考察させる。学習課題と結論の整合性を確実に行う。 | ① 問いをもたせる事象の提示 ② 課題解決の見通しをもたせる話し合い ③ 全員が学習活動に参加できる役割分担 ④ 結果が明確に表れる観察・実験 ⑤ 課題と結論の整合性 | ① 小6年「てこのしくみとはたらき」 ② 小5年「ものの溶け方」 |

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|----|------|----------|-----------------|-------|---|---|--|--|
| 49 | 行政 | 教育相談センター | 八百板 恵理子 (所長) | 理科 | 思考力 表現力 主体的な学び 問題解決学習 | 子どもが科学的な見方や考え方をもちことができるように、次の手だてを大切にしてきた。 A区分では、モデル図を用いて説明したり、結果を表やグラフに整理し考察したりすること。 B区分では、時系列に予想し、繰り返し観察することを通して、児童が演繹的に理解すること。 | ① 対象にじっくりかかわらせ、問いをもたせる。 ② 結果を基に、しっかりと考察させる。 ③ 「比較」「関係付け」「推論」などの思考を促す。 ④ 実生活との関連を図る。 | ① 小5年 「ふりこの運動」 ② 小5年 「流れる水のはたらき」 |
| 50 | 行政 | 特別支援教育課 | 桑原 通泰 (課長) | 理科 | 学び合い・かかわり合い 実践的・体験的な学習 その他(単元・授業における導入) | 授業規律を確立しながらも、学び合い、かかわり合いの場を効果的に設定する。また、単元全体や一単位時間の導入を工夫し、一貫して興味を持續させることができる教材提示・授業展開を工夫する。 しかし、単に楽しいだけで終わらないよう心がけ、生徒にどのような力を付けさせるかを考えた授業を展開する。 | ① イメージの視覚化 ② 興味や関心を深める驚きや発見との出会い ③ 学習規律の確立 ④ かかわり合い、学び合い ⑤ 素朴概念の把握と訂正 | ① 中2年 「化学変化と電池」 ② 中3年 「日周運動と自転」 |
| 51 | 行政 | 総合教育センター | 坂井 友紀 (指導主事) | 理科 | 学び合い・かかわり合い 考えの視覚化 主体的な学び | 素朴概念と“ズレ”を生む事象を提示し、課題を設定する。生徒の考えを「はじめ」「討論後」「結果とわかったこと」3段階で自分の考え(予想)を表出させながら知識の再結合を図る。検討場面では自分の考えの根拠を視覚化し、自分の言葉で説明したり他者と考えを比較したりする活動を重視する。 | ① 素朴概念とズレを生む課題・教材提示 ② 既習や体験を根拠にした自分の予想 ③ 課題解決に向けた予想の比較・検討 ④ 観察・実験による検証 | ① 中1年「力のはたらき(2力のつり合い)」 ② 中2年「電流とそのはたらき(電気による発熱)」 |
| 52 | 1106 | 葛塚東小 | 二野 憲子 (教諭) | 生活 | 学び合い・かかわり合い 主体的な学び 実践的・体験的な活動 | 低学年における人・社会・自然にかかわる活動は、生涯に渡って、学習や生活の基盤となる。生活科では、活動は内容であり、目的である。学習環境と児童の実態を踏まえて最適な学習材を選定し、時を逃さず学習活動を展開する。子どもの気付きを見取ってつなげ、子どもが仲間とかかわりながら意欲的に学ぶ授業を目指す。 | ① 魅力的で多様性・発展性のある学習材の選定 ② 子どもの思いや願いがふくらむ単元構成 ③ 子どもの興味・関心を基にした課題設定 ④ 気付きの交流 ⑤ 子どもの見取りと支援 | ① 小1年「がっこうだいすき」(学校と生活) ② 小1・2年「モルモットとともだち」(動物の飼育) |

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|----|------|-------|----------------|-------|--|--|--|---|
| 53 | 1108 | 木崎小 | 本田 泉 (教諭) | 生活 | 学び合い・かかわり合い 主体的な学び 実践的・体験的な学習 多様な考え 評価 | 子どもが、自分の学びを実感できる授業。そのために、子どもの思考の流れを大切にしながら、単元指導計画を構想する。 また、ねらいに迫るための課題を吟味し、子ども同士のかかわり合いを組織する。 更に、一人一人の学びを丁寧に見取り、適切な評価と支援を行う。 | ① 聴き合い学び合う関係づくり ② 人・もの・こととの環境構成 ③ 活動と振り返りの繰り返し ④ 気付きの交流 ⑤ 個を尊重した支援と評価 | ① 小1年「あきのこうえん」(季節の変化と生活) ② 小2年「大すき こそど」(地域と生活) |
| 54 | 1406 | 東曽野木小 | 川口 由美子 (校長) | 生活 | 学び合い・かかわり合い 主体的な学び | 子どもの実態をふまえて単元の導入を工夫し、子どもたちと対象との距離を縮めながら、「繰り返し」や「比べる」活動を組織した単元構成や授業を組織する。 気付きを大切にするとともに共有する場面を大切に、共に学び合うことを大切にする。 | ① 子どもたちと対象との出会わせ方 ② 活動(学び・気付き)が見える掲示物の作成 ③ 思いや願い、気付きを表現するための書く活動 ④ 学びを共有する場の設定 ⑤ 認められ、居場所を感じられる学び合い・かかわり合い | ① 小2年「みんなであそぼう わっはっは」(遊び) ② 小2年「いきものとなかよしになろう」(飼育) |
| 55 | 1717 | 山田小 | 伊藤 真理 (教諭) | 生活 | 学び合い・かかわり合い 主体的な学び 実践的・体験的な学習 | 児童が「やってみよう」「できそうだな」と感じ、更に「もっとやりたい」「もっと工夫できそうだな」と思えるような教材を提示する。 また児童が思いを表現しやすい環境をつくり、豊かな活動ができるようにする。 | ① 「やってみよう」と感じられる教材の提示 ② 活動を豊かにする環境構成 ③ 児童のかかわりからの学び合い ④ 児童の見取りと支援 ⑤ 活動時間の保障 | ① 小1年「ざりがにとなかよし」(飼育) ② 小2年「かぜとあそぼう」(遊び) |
| 56 | 1102 | 南浜小 | 村山 香織 (教頭) | 音楽 | 基礎・基本 問題解決学習 考えの視覚化 発問 | 鑑賞の授業を通して、音楽の聴き方を身に付ける。 楽曲のよさや美しさをつくっている要素や仕組みを分析的に聴いたり、要素や仕組みの相互のつながりをとらえて聴いたりして、音楽を味わって聴くことができるようにする。 | ① 教材との出会わせ方の工夫 ② 問いをもたせる発問 ③ 身体を動かす活動 ④ 音の視覚化 | ① 小2年「音楽レストラン～シンコペーテッドクロックをきこう～」 ② 小2年「音楽レストラン～がっきの音から、ようすを思い浮かべよう～」 |

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|----|------|------|----------------|-------|--------------------------------------|--|--|--|
| 57 | 1103 | 太夫浜小 | 中村 香 (校長) | 音楽 | 思考力 表現力 実践的・体験的な学習 活用 | 独自に考案した「音楽づくり・創作カリキュラム」に基づいて授業をつくり、系統的に進めていく。 共通事項との関連を明確にし、鑑賞活動を通して聴き取った音楽の仕組み(Rond形式、カノン形式、A→B→ABの重なり、変奏曲形式等)を活用して、見通しをもったメロディーづくりを展開する。 | ① 鑑賞活動を通して音楽の仕組みを聴き取らせる。 ② 聴き取ったことの共有化を図る。 ③ 聴き取った音楽の仕組みを活用しながらメロディーづくりを展開する。 ④ 表したい感じになるようにメロディーの修正をさせる。 ⑤ つくったメロディーを聴き合う。 ※④⑤を繰り返しながらメロディーを練り上げていくようにさせる。 | ① 小4・5・6年「楽しく音楽づくり♪メロディーをつくろう Part4 ハーモニーのあるメロディーをつくろう」 ② 小4・5・6年「楽しく音楽づくり♪メロディーをつくろうPart5 自分だけのとっておきの変奏曲風メロディーをつくろう」 |
| 58 | 1206 | 桃山小 | 吉田 由香子 (教諭) | 音楽 | 学び合い・かかわり合い 主体的な学び 評価 | どの子どもも「できた・分かった」と思える授業づくり。子どもの実態に合った教材の視覚化。場の工夫。指示・発問の明確化。また、全員が授業に主体的に参加できるように、言葉、体の動き、図示等を大切にしながら様々な方法を用いる。 | ① 他教科・領域と関連させた題材設定 ② 話し合ったり聴き合ったりして創り上げる楽しさの共有化 ③ 体を動かす活動を取り入れ視覚化 ④ 子どもに合った場の設定 | ① 小1年「いろいろなおとをたのしもう」(音楽づくり) ② 小4年「せんりつのもり」(歌唱) |
| 59 | 1317 | 有明台小 | 白澤 陽子 (校長) | 音楽 | 思考力 表現力 主体的な学び 考えの視覚化 発問 | 音楽科において育てたい思考力・表現力・判断力を明確にし、音楽的な活動を通して高めることができるようにする。 主体的に学習に取り組み、音楽科における学びを高めることができる学習課題を設定する。 | ① 児童が興味・関心をもち、活動への意欲を高めることができる教材提示の工夫 ② 楽しみながら表現の技能や音楽的な見方・考え方を高めることができる場の設定 ③ 感じ取ったこと・聴き取ったこと・音楽の可視化・言語化 ④ 音楽的な気づきや思考を促す発問の工夫 | ① 小6年「音の重なり合う響きを感じ取ろう」(器楽) ② 小1年「いいおとをみつけてあそぼう」(器楽) |
| 60 | 1408 | 亀田小 | 山田 やしほ (教諭) | 音楽 | 思考力 表現力 主体的な学び 考えの視覚化 | 子どもの言葉や気づきを「本時のねらい」「音楽科の[共通事項]」につなげる授業構成。一人一人のもつ興味・関心や問題意識を基に構成する、目の前の子どもを起点とする授業づくり。 子どもの考えが見える授業。 | ① 子どもの興味・関心と学習をつなげる教材提示 ② 音楽的な活動の時間や場の保証 ③ 「体の動き」と「言葉」のつながりの気づきを学びの深まりに生かす工夫 ④ 多様な考えの視覚化と価値付け ⑤ 多様な表現方法の工夫 | ① 小3年「拍にのってリズムを感じ取ろう」(音楽づくり) ② 小3年「曲の感じを生かそう」(鑑賞) |

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|----|------|-------|-----------------|-------|--|--|--|---|
| 61 | 1501 | 新津第一小 | 内海 昭彦 (教諭) | 音楽 | 思考力・表現力 主体的な学び 多様な考え 評価 | 児童が「こうやってみたい」「こう表現したい」という思いをもつような課題提示の工夫と、授業を貫く追究意欲を喚起する授業の仕組みづくり。 実技教科の音楽科におけるまとめや振り返りの流れと評価のスタイルの確立。 | ① 主体性を重視した知覚・感受の活動 ② 「こうやってみたい」「こう表現したい」を引き出す課題提示 ③ 「一緒にやると楽しい」「もっと一緒にやりたい」と思わせる交流活動 ④ 「できた」「楽しかった」を実感させる授業終末の展開の工夫 | ① 小2年「ようすをおもいうかべよう～小きつね」(歌唱・器楽) ② 小4年「いろいろな音のひびきを感じ取ろう～音のカーニバル」(歌唱・器楽) |
| 62 | 1503 | 新津第三小 | 佐々木 和香子 (教頭) | 音楽 | 学び合い・かかわり合い 表現力 主体的な学び 実践的・体験的な学習 | どの子ども安心して考えを表現できる学習教材の工夫をする。 認め合う学習集団を基盤とした表現活動を取り入れ、考えや気付きを明確にする。 曲の特徴をつかみ、興味をもたせる提示(音源・映像)の工夫をする | ① 「考えてみたい」「やってみたい」と思う学習課題の設定 ② 学習活動につながる視点をもたせる提示の仕方 ③ 温かい集団を基盤とした表現活動の工夫 ④ 考えを表現できる学習教材の工夫 | ① 小6年「いろいろな音の響きを味わおう～ボレロ～」 ② 小6年「曲想の変化を味わって聴こう～ハンガリー舞曲第5番～」 |
| 63 | 1718 | 立仏小 | 大平 めぐみ (教諭) | 音楽 | 基礎・基本 主体的な学び 考えの視覚化 発問 | 目標に関連する共通事項を整理し、児童の実態を基に目標達成のための手だてや教材の開発を行う。 児童の意欲が活発になるよう、取り組む課題を明確にし、視覚からもとらえさせ、音楽的な体験を通して基礎的な能力を身に付けられるようにする。 | ① 疑問や発見を引き出す課題提示の工夫 ② 音楽の要素や仕組みを視覚でとらえさせる工夫 ③ 多様な考えを整理し方向付ける発問の工夫 ④ 相互評価の場面づくりと評価規準 ⑤ 学習したことをまとめる言語活動の工夫 | ① 小4年「せんりつのとくちょうを感じ取ろう」(歌唱) ② 小6年「夏休みの思い出を音楽にしよう」(音楽づくり) |
| 64 | 1806 | 潟東小 | 笛木 晶子 (校長) | 音楽 | 基礎・基本 表現力 実践的・体験的な学習 考えの視覚化 | 児童にとって楽しさや充実感・仲間との連帯感を感じられるような音楽づくりの学習の教材開発を行う。 教材性について深く研究し、児童にとって無理なく進めていける指導計画を立てる。ねらいと評価を明確にする。 | ① 児童の意欲を喚起する教材提示の工夫 ② 児童の思いや願いを継続させる工夫 ③ 無理なく学習を進められるような手立ての工夫 ④ 見えない音楽を見えるようにする視覚化の工夫 ⑤ 多様な考えを引き出す発問の工夫 | ① 小5年「5つの音で音楽をつくろう」(音楽づくり) ② 小5年「曲想の変化を味わって聴こう」(鑑賞) |

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|----|------|------|-----------------|-------|---|---|--|---|
| 65 | 2601 | 白南中 | 斎藤 隆 (教頭) | 音楽 | 基礎・基本 表現力 主体的な学び 多様な考え | ① 「生徒に自らの課題意識をもたせる」ようにする。そのため、お互いの表現を聴き合う活動を設定したり教師の助言を工夫したりする。 ② 表現の工夫や鑑賞などでは、音で表現されたことを言葉にするための支援と、同時に、言葉だけで考えず、もう一度実際に歌ってみたり音楽を聴いてみたりすることで、実感できるようにする。 ③ 目に見えない音楽を楽譜や図で視覚化して表現を工夫できるようにする。 | ① 自分なりの目標をもって活動に取り組む。 ② 多様な考えの交流から視点を増やす。 ③ 発言だけでなく付箋カードを貼るなどの方法で互いの考えを交流する。 ④ 表現や鑑賞の活動の繰り返しによって音楽的な思考を深める。 ⑤ 音や音楽の視覚化 | ① 中1年「『魔王』の鑑賞」 ② 中1年「混声三部合唱を歌おう」 |
| 66 | 1411 | 亀田西小 | 椎野 越子 (主幹教諭) | 図画工作 | 学び合い・かかわり合い 思考力 表現力 多様な考え | 造形的な見方・考え方に基づいて、子どもが自分自身で意味や価値を見出していける授業づくり。鑑賞活動では、年間に渡り系統的に題材を構成した。表現活動では、「みる」活動を意図的に取り入れることで、発想や構想を広げ、表現することを楽しむ姿を目指している。 | ① 興味・関心をもち、意欲を高める導入や教材提示 ② 学ばせたいことを明確にしたねらいの設定 ③ 課題解決に向け、子ども同士が気付きや考えを交流する場の設定 ④ 「みる」「試す」を取り入れ、主体的な学びを促す学習活動 | ① 小4年「なりきり美術館」 (鑑賞) ② 小4年「まぼろしの花」(表現) |
| 67 | 1509 | 金津小 | 渡邊 敏尚 (校長) | 美術 | 基礎・基本 思考力 表現力 主体的な学び 活用 その他(試行活動・交流活動) | 造形教育で身に付けさせるべき基礎・基本の定着。導入の工夫・学習課題の明確化による主体的な学びの保障。 試行活動や交流活動など身に付けた基礎・基本を活用して学びを深める活動の組織。まとめや振り返りによる学びの自覚。(ねらいと評価の一体化) | ① 問題意識を喚起する授業導入 ② 学習課題の明確化と解決への見通し ③ 主体的な学びを促すための活動の組織や環境の整備(試行活動、交流活動等) ④ 個別支援の充実とみとり ⑤ 振り返り場面の設定と評価 | ① 中3年「15歳の自我像」 (表現・平面) ② 中1年「抽象画って何だろう?」(鑑賞) |
| 68 | 2207 | 東石山中 | 山際 保男 (教諭) | 美術 | 学び合い・かかわり合い 思考力 表現力 主体的な学び | 実態を踏まえて、生徒の表したいことや表現方法、制作の手順などの発想・構想を基に、主体的に制作に取り組む姿を目指す。 鑑賞活動と表現活動を繋げることで造形的な見方・考え方を広げること。 | ① 生徒に憧れや制作意欲をもたせるための導入時の工夫 ② モデル作品の鑑賞と生徒同士の交流場面の設定 ③ 具体的に発想・構想できるようにするためのプランニングシートの工夫 ④ めあての設定と振り返りによる制作意欲の継続 | ① 中1年「感じを伝える漢字 ～文字絵がしゃべりだす～」 ② 中1年「気持ちを伝えるカード ～ポップアップカード～」 |

マイスター一覽

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|----|------|----------|-----------------|-------|---|---|--|---|
| 69 | 2308 | 上山中 | 田代 豪 (教諭) | 美術 | 学び合い・かかわり合い 表現力 主体的な学び 考えの視覚化 多様な考え | ① 生徒の実態を踏まえて、明確で分かりやすいねらいを設定し、「やってみたい」、「味わいたい」という意欲を高めている。 ② 生徒の多様な実態に対応するため、創造的な題材を開発している。 ③ 生徒が表現したことや感じたことに自信をもつことができる。 | ① かかわり合いの中から、人・もの・ことに新たな視点をもつことができる。 ② 個で考えたり、仲間と交流したりして、楽しく悩みながら表現・鑑賞できる。 ③ 感じ取ったことをもとに、生徒が自分なりの作品の意味や価値をつくりだしていく。 ④ 視覚化されたものから生徒の変容を見取って評価する。 ⑤ 生徒同士の対話による鑑賞を組織し、生徒が作品について自分なりの意味や価値をつくりだしていく。 | ① 中1鑑賞「絵の中をよく見ると」 ② 中2鑑賞「水と墨を操る」 ③ 中3鑑賞「あの日を忘れない」 |
| 70 | 行政 | 学校人事課 | 関根 秀也 (管理主事) | 図画工作 | 基礎・基本 学び合い・かかわり合い 思考力 表現力 多様な考え | 児童の実態をふまえて明確なねらいを設定し、遊びやゲームの要素を取り入れて、楽しみながら「思考力」「表現力」を高める。 そして、その高まった資質能力を発揮させるような題材提示をして、見方・感じ方の幅を広げる。 | ① 児童の思いと今もっている力の把握 ② アートゲームの活用 ③ 試しの活動 ④ 材料、場、友達とのかかわり ⑤ 児童同士の相互鑑賞 | ① 小6年「墨から感じる形や色」 ② 小1年「はこのなかまたち」 |
| 71 | 2308 | 上山中 | 永井 歓 (教頭) | 技術 | 思考力 主体的な学び 実践的・体験的な学習 活用 その他(教材開発・教材活用) | 生徒が興味・関心を高め、必要と実感し、追究・創作の意欲を継続・向上させるような教材開発や教材活用、課題提示を工夫する。 生徒が工夫し創造する過程を重視し、生徒の豊かな発想を引き出す。 失敗を経験とし、更に工夫を重ね、思考を深め技能を高める授業を展開する。また、そのための環境を整備する。 | ① 興味・関心を高める導入 ② 生徒に主体的な問いをもたせる課題設定 ③ 生活と密接にかかわり、必要と実感する教材の開発・活用 ④ 適切な技術の評価と活用 | ① 中2年「自律制御製品の製作」 (設計) ② 中1年「身近な木製品製作」 (部品加工) |
| 72 | 行政 | 総合教育センター | 上野 一志 (指導主事) | 技術 | 学び合い・かかわり合い 思考力 問題解決学習 実践的・体験的な学習 多様な考え | 実践的な活動の中で、試行錯誤し、粘り強く学習していく生徒の姿を目指して授業を構想する。身の回りの生活環境や社会の事象から解決の糸口を見付け、多様な考えから個々に判断するような学習形態を構築する。 | ① 生徒の実態把握 ② 実態に即した課題の設定 ③ ICTによる視覚的な情報の活用 ④ 多様な意見を視覚的に把握する板書の工夫 ⑤ 自分の学びを客観的に捉えるための振り返り | ① 中1年「生活に役立つ製品をつくろう」 ② 中2年「文房具のCMをつくろう」 |

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|----|------|------|-----------------|-------|--|--|--|--|
| 73 | 1812 | 松野尾小 | 福田 愛日 (教頭) | 家庭 | 基礎・基本 問題解決学習 実践的・体験的な学習 活用 | 子どもが家庭生活への関心を高めたり、学習したことを家庭生活に生かしたりできるように、日常生活との関連を大切にした指導を構想する。 基礎的な知識や技能が身に付くように、実践的・体験的活動を工夫する。 | ① 家庭生活への関心を高める調査活動 ② 活用する知識・技能の精選 ③ 学習の見通しをもつことができる学習課題 ④ 簡易実験や試しの実習 ⑤ 自信度をチェックする振り返り活動 | ① 小5年「作っておいしく食べよう」 ② 小5年「身の回りを気持ちよくしよう」 |
| 74 | 1110 | 早通南小 | 清野 大介 (教頭) | 体育 | 基礎・基本 学び合い・かかわり合い ICT機器の活用 | 児童の願い(好悪感)や運動技能に対する実態把握を行い、共感的な雰囲気のもとで、誰もがより楽しみながら知識・技能を高められる単元の設定を行う。 授業では、「できそう」「やってみよう」を大切に、かかわり合いの中で自身や友達の動きを捉え、改善できるようにする。 | ① 児童の実態把握とグルーピング ② ICT機器の活用による見る視点の明確化 ③ 無理なく活動を進められるような手立ての工夫 ④ 繰り返し挑戦できる試しの場の設定 ⑤ 共感的な学級風土 | ① 小6年「イメージしたことを身体いっぱい表そう！自然の猛威！」(表現運動・表現) ② 小6年「どうすると健康でいられるかな？」(保健体育 病気の予防 がん教育) |
| 75 | 1206 | 桃山小 | 長井 隆樹 (教諭) | 体育 | 基礎・基本 学び合い・かかわり合い 主体的な学び その他(スモールステップによる段階的な指導) | 授業のねらいをシンプルにし、単元で「教えること」と「考えさせること」を明確にしながら、児童の思考が自然にねらいに迫るよう意図的な授業展開をする。また、個の力を集団の力で伸ばす。 | ① かかわり合い ② 克服 ③ 基礎・基本の明確化 ④ 段階的な指導 ⑤ 楽しみながら運動に没頭できる | ① 小4～6年「体づくり運動・長なわとび(集団長なわ・ダブルダッチ)」 ② 小5～6年「体づくり運動・持久走」 |
| 76 | 1410 | 亀田東小 | 小林 治雄 (主幹教諭) | 体育 | 基礎・基本 思考力 評価 その他(学習規律・授業のマネジメント) | 児童の体力や運動技能の実態を把握し、それに合わせて運動教材や教具の工夫やスモールステップの設定を行う。 また、授業では、運動をゲーム化・得点化して意欲を高め、友達とかかわりながら動きを習得させる。 | ① 児童の実態把握とグルーピング ② 動きの分析と運動教材の工夫 ③ 学習課題の設定 ④ 評価の計画 ⑤ 「分かる→できる」を大切にされた指導過程の工夫 | ① 小1～6年「おりかえしの運動(体づくり運動)」 ② 小4～5年「ハンドテニス(ゲーム)」 |

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|----|------|----------|-----------------|-------|--|---|---|--|
| 77 | 1701 | 小針小 | 三本 雄樹 (教諭) | 体育 | 思考力 表現力 主体的な学び 考えの視覚化 評価 | 児童一人一人に、技能について主観的に評価させたり、身体を通して感じたコツを表現させたりしながら、メタ認知的資質・能力の育成を目指してきた。 技能の向上を実感させるために、児童一人一人と意図的にかかわることを大切にしてきた。 | ① 体育の認識学習(運動の課題認識・運動の実態認識・運動の方法認識) ② 運動の身体的認識 ③ 「全員ができる」から始める単元構成 ④ 思考ツールの活用 ⑤ 「できたメーター」を取り入れたOPPシートを用いた振り返り | ① 小1年「ゲーム(ボールゲーム) ボール蹴りゲーム」 ② 小5年「ボール運動(ゴール型) フラッグフットボールを基にした簡易化されたゲーム」 |
| 78 | 1711 | 坂井輪小 | 渡辺 重光 (教頭) | 体育 | 基礎・基本 学び合い・かかわり合い 問題解決学習 | 児童の実態を明らかにし、その中で抱える困り感を分析する。運動教材を把握し、教師がつかませたい力と児童の思考がずれないように、授業の着地点を絞る。運動量を確保しながら、「今日の授業の学び」が生まれる授業づくりを目指す。 | ① 児童の実態把握 ② 動きの分析と運動教材の把握 ③ 目指す子どもの姿の明確化 ④ 学習課題の設定 ⑤ 評価 | ① 小2年「みつけてねらってシュート」(ボール蹴りゲーム) ② 小6年「めざせ！跳び箱の達人」(跳び箱運動) |
| 79 | 2705 | 小針中 | 中山 智司 (教頭) | 保健体育 | 基礎・基本 主体的な学び 実践的・体験的な学習 | 生徒が感じている運動の楽しさ、魅力の吟味をしながら運動の特性を生徒の立場から捉えなおす。 生徒にとっての意味を大切に授業づくりを推進する。 技能定着に必要な体への気付き、ゲームの高まりの中で生まれてくる課題や困り感を大切にしながら、どう手立てを打ち、仕組んでいくかを大切に作る。 | ① 特性の捉え直し ② 明確なねらいの設定 ③ よい動きを感覚的につかませる運動の提示、よい動きのポイントの提示 ④ よい動きを引き出すミニゲーム ⑤ 段階的指導 わからない⇒わかったけどできない⇒わかってできる⇒できる⇒いつでもできる | ① 中1年「球技 ベースボール型」 ② 中1・2年「武道 柔道」 |
| 80 | 行政 | 生涯学習センター | 小森 康貴 (指導主事) | 体育 | 基礎・基本 学び合い・かかわり合い 主体的な学び 考えの視覚化 | どの段階の児童でも「できた」という思いをもつことができるように、場やルールを工夫する。また、児童同士のかかわり方を明確にすることで、児童がお互いに動きを評価し合えるようにする。 | ① 動きの系統性 ② 段階的な指導 ③ できたかどうかの判断基準の明確化 ④ 楽しみながら運動 ⑤ 児童の問題意識を生かした学習課題の設定 | ① 5年「めざせ！跳び箱名人」 ② 5年「マット運動」 |

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|----|------|----------|-----------------|-------|---|--|---|---|
| 81 | 行政 | 地域教育推進課 | 本間 知可 (指導主事) | 体育 | 基礎・基本 学び合い・かかわり合い 主体的な学び | 児童の実態を踏まえた明確で分かりやすいねらいの設定。運動が苦手な児童でも「楽しそう！やってみよう！」と挑戦意欲をもたせる教材の工夫。特に表現運動での児童の動きを引き出す教師の効果的な働きかけ。 | ① 児童の実態把握 ② 身に付けさせたい力の明確化 ③ 段階的指導 ④ 学習課題の設定 ⑤ みんなができるようになるための仕組み作り | ① 小3年「みんなノリノリダンスーズ！」(表現運動・リズムダンス) ② 小4年「はらはらドキドキアドベンチャーゲーム」(表現運動・表現) |
| 82 | 行政 | 総合教育センター | 音田 和行 (指導主事) | 体育 | 基礎・基本 学び合い・かかわり合い その他(UD) | 子どもたちにとって易しい授業づくりを心がけ、2つの楽しさを保障する。 ① 今もっている力で楽しむ。 ② 更に工夫して楽しむ。 「身に付けさせること」や「考えさせること」を明確にし、体育の得意な子と苦手な子の両方を巻き込んで、目指す子どもの姿を具現する。 | ① 実態(子どもたちが今もっている力と願い)の把握 ② 授業後の「目指す子どもの姿」の具体化 ③ 手立ての精選 ④ 短く、分かりやすい発問・指示 ⑤ かかわり合い | ① 小6年「体の動きを高める運動」～短なわの連続技づくりを通して～ |
| 83 | 1314 | 鳥屋野小 | 佐藤 貴子 (校長) | 外国語活動 | 基礎・基本 主体的な学び 実践的・体験的な学習 考えの視覚化 | 小学校外国語活動におけるコミュニケーションを具現する「題材」や「活動」の開発。子どもにとって「半知」の題材を与え、「聞きたい」と実感させ、英語を聞いて分かる体験を保障する。そして、子どもが英語やジェスチャーで反応したくなる「連鎖」を作り出し、コミュニケーションを実現する。 | ① 知っているようで知らない状態＝半知→学ぶ意欲の喚起 ② 他教科、領域との関連 ③ 異文化理解＝自文化理解のこつ ④ 考えの視覚化 ⑤ インタラクティブな活動の組織 | ① 小5年「色の不思議」 ② 小6年「行ってみたい国を紹介しよう」 |
| 84 | 1407 | 横越小 | 中川 久幸 (教頭) | 英語 | 基礎・基本 学び合い・かかわり合い 主体的な学び | ICTを活用して、教材や課題を提示することで、興味・関心を喚起させ、学習課題に主体的に取り組めるようにする。新出の文法事項を導入した後に、機械的な練習から意味を重視した練習を組織し、文法の形・機能・使用場面を身に付けさせる。 | ① 文法の導入場面 ② 新出言語材料の機械的な練習 ③ 新出言語材料の意味を重視した練習 ④ ICTの活用 ⑤ ペアワーク | ① 中2年「India, My country」 受動態の導入 ② 中3年「I have a dream」 後置修飾の導入 |

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|----|------|------|----------------|---------|-----------------------------------|---|--|---|
| 85 | 1408 | 亀田小 | 渋谷 徹 (校長) | 外国語活動 | 基礎・基本 思考力 表現力 | 「コミュニケーション能力の素地」の正体は「推測(類推)と反応」である。相手が伝えようとしている「意味や感情」を推測して理解しようとし、反応を返してやることである。このような「コミュニケーション能力の素地」を養うためには、二つの条件を満たした授業が必要である。 ① 子どもが推測したり反応したりしたくなるような「題材」を設定する。 ② 言語情報だけでなく、推測を助けるための非言語情報を提示する。 | ① コミュニケーション能力の素地 ② 推測(類推) ③ 反応 ④ 聞いて分かる ⑤ 言語や文化 | ① 小5年「英語で漢字」 ② 小5年「数と形で遊ぼう」 |
| 86 | 2301 | 関屋中 | 小林 英男 (校長) | 英語 | 学び合い・かかわり合い 表現力 発問 | 教室をアメリカの空気にする。できるだけクラスルームイングリッシュを使う。生徒の名前はファーストネームで呼ぶ。毎時間英語の歌を歌う。BGMをかけて教室の雰囲気明るくする。 発言することが大切、間違ふことを恐れない雰囲気づくりを心がけている。そして、生徒たちに英語を好きになってもらう努力をしている。 | ① 英語の歌 ② Watch & Speak ③ ディクテーション ④ シャドーイング ⑤ 現実的な場面を想定した表現活動 | ① 中3年「Speaking Plus 4」 ② 中3年「Further Reading 星野道夫の世界」 |
| 87 | 2302 | 鳥屋野中 | 本岡 直美 (教諭) | 英語・特別支援 | 学び合い・かかわり合い 思考力 表現力 評価 | どの生徒にもわかりやすいように視覚支援を用いて、なるべくAll Englishで指示をしながら生徒に多くの英語をふれさせる。目的意識と意欲をもたせる単元を構成し、ゴールをイメージさせながら、全員がねらいを達成できるように補助し、成功体験を積み上げさせる。 | ① 意欲を引き出すゴールの設定 ② ペアでの意見交換・交流 ③ 見通しをもたせる環境構成 ④ スモールステップを意識した活動構成 ⑤ ゴールに向かってくり返し、楽しむ！ | ① 中1年 「ロシアの生徒に向けて友達紹介文を書こう」 ② 中2年 「クラスの人気ランキングを発表しよう！」 |
| 88 | 2402 | 曾野木中 | 小田 久美子 (教頭) | 英語 | 学び合い・かかわり合い 主体的な学び 発問 評価 | 生徒にとって身近な題材を中心に、興味・関心を第一に考えた教材を提示する。生徒が授業の中で英語を発話する量を確保し、授業での指示や場面提示もオールイングリッシュで行う。口頭練習の過程を工夫することにより定着を図り、生徒が楽しみながら、学びを深める活動を組織する。 | ① 生徒の興味・関心に基づく教材 ② クラスルームイングリッシュ ③ ペアでの意見交換・交流 ④ 目的をもったコミュニケーション活動 ⑤ 明確な評価 | ① 中3年 「Places to Go, Things to Do」 ② 中3年「I Have a Dream」 |

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|----|------|------|---------------|-------|--|---|--|--|
| 89 | 4301 | 万代高校 | 高田 哲也 (教諭) | 英語 | 学び合い・かかわり合い 思考力 表現力 主体的な学び 問題解決学習 活用 多様な考え | 英語学習に対する生徒一人一人のモチベーションに火をつけることに注力している。英語を学ぶことを通して見えてくる新しい世界、新しい視点、新しい出会いなど、教科書の向こう側にあることに目を向ける広い視野をもつきっかけづくりのための仕掛けをすることで、生徒の学びは自走すると考えている。 | ① いつもペアトークで授業をスタート ② before/afterの変化にフォーカス ③ 教科書の奥にある世界をイメージ ④ 授業でしかできないことをするのが授業 ⑤ やってみなくちゃわかんないじゃん | ① 高校2年(英語表現Ⅱ) ② “Internet shopping is better than going to real shops” (ディベート指導) |
| 90 | 1305 | 新潟小 | 脇野 範子 (教諭) | 道徳 | 学び合い・かかわり合い 主体的な学び 評価 | 読み物教材を活用した「考え、議論する道徳」の授業づくりを通して、道徳的諸問題を自分事としてとらえることと、道徳的価値に照らして他者と共に課題を解決しようとする。 | ① 再現構成法を活用した教材提示と、教材、人物の自我関与を通じた課題解決の工夫 ② 自分だったらどのように行動するかを役割演技で考えさせる工夫 ③ 実践意欲の高まりを顔絵で表出させ、本時の学びを振り返らせる評価の工夫 | ① 小1年「やめなさいよ」 A-1 善悪の判断, 自立, 自由と責任 ② 小6年「移動教室の夜」 B-10 友情, 信頼 |
| 91 | 1316 | 女池小 | 田中 修二 (校長) | 道徳 | 学び合い・かかわり合い 主体的な学び 問題解決学習 活用 発問 多様な考え 評価 | いじめの未然防止に役立つ道徳科の授業づくりを追究。いじめに関する問題を自分自身のこととして、多面的・多角的に考え深める構成、問題解決的な構成、被害者・加害者・傍観者・観衆(いじめの4層構造)の立場を踏まえて考え合う構成を工夫。 | ① 道徳教科書の効果的な利用方法 ② 道徳的価値の深い理解 ③ 多面的・多角的な意見交流・対話 ④ 道徳的実践への意欲付けを進める終末 ⑤ 教科道徳科の授業と道徳教育(道徳的実践へ) | ① 小4年「ぼくは知ってる陽一のいいところ」B-(9)友情・信頼 資料場面の再現構成 ② 小5年「ぜったい ひみつ」 B-(9)友情・信頼 モラルジレンマ資料の活用 |
| 92 | 1705 | 赤塚小 | 和田 藍子 (教頭) | 道徳 | 学び合い・かかわり合い 考えの視覚化 発問 多様な考え | 私は、他者の多様な考えに出合わせる中で、道徳的価値の理解を深めさせている。そのために私は、自己の潜在的な考えに気付かせて表現させたり、子どもが語る言葉を繋いだりすることを大切にしている。 | ① 課題を生むための手立て ② 自己を見つめ多様な考えに出合わせるための思考ツールや心のものさしの活用 ③ ペア・グループトーク ④ 第2の教材 | ① 小6年「よりよい学校をめざして『六年生の責任って?』」 ② 小6年「法やきまりを守って『ここを走れば』」 |

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|----|------|----------|-------------------|-------|---|--|---|--|
| 93 | 1710 | 五十嵐小 | 渡邊 泰治 (教諭) | 道徳 | 学び合い・かかわり合い 問題解決学習 発問 多様な考え その他(資料開発) | 『魅力的な人＝夢や目標に向かって努力した人物、人間らしい弱さや苦勞を乗り越えて生き生きと生きる人物、人間らしい姿が児童に共感と感動を与える人物』に学ぶことで子どもたちに“喜びと夢”を育むことをテーマに、主に高学年で問題解決的の道徳学習を実践してきた。 | ① 魅力的な人物 ② 喜びと夢を育む ③ 資料開発 ④ 問題解決的な道徳学習 ⑤ 多時間多主題 | ① 小4年～中3年「生きる喜び、アンパンマンのように愛と勇気を」(生命尊重、思いやり、勇気) ② 小1～3年「にじいろの魚」(友情、勇気) |
| 94 | 行政 | 総合教育センター | 佐久間 奈々子 (指導主事) | 道徳 | 学び合い・かかわり合い 主体的な学び 考えの視覚化 多様な考え 教材の改編 | 中学校の長い教材文をどのように効果的に扱うかを考慮し、道徳的諸価値の理解を目指した授業づくりを大切にしてきた。価値の理解を根底においた、生徒が熱く語り合う中で考えが「広がる」・「深まる」授業を目指す。 | ① 生徒が語り合う「共に学ぶ・友に学ぶ」授業 ② 授業を焦点化する効果的な「思考ツール」の活用 ③ いじめが起こらない集団に向け、「実践意欲」を目指した自我関与を促す授業 ④ 教材提示について、再現構成法、写真、場面絵、改編による工夫 ⑤ 学級経営の1つの柱となる道徳の授業づくり | ① 中1年「銀色のシャープペンシル」「撮れなかった一枚の写真」(D-22生きる喜び) 「いじめが生まれるとき」(C-11公正、公平、社会正義) ② 中3年「二人の弟子」(D-22生きる喜び)、「闇の中の炎」(C-10 遵法精神、公德心) |
| 95 | 行政 | 教育総務課 | 近藤 和徳 (副参事) | 道徳 | 学び合い・かかわり合い 主体的な学び 考えの視覚化 多様な考え | 「考え、議論する道徳」の具現に向け、児童が、道徳的諸問題を自分事として考え、友達と意見を交流し、自分の考えを深める姿を目指している。その際、「ハートメーター」や「心情スケール」などを活用して思考を視覚化し、問題場面と自分の経験を結びつけながら考えられるようにしている。 | ① 道徳的諸問題に対する児童の実態把握 ② 本時で考えさせたい道徳的価値と他の教育活動との関連をチャート化 ③ 児童の興味・関心を高めながらねらいに迫るために、教材の一部改作や視覚に訴えるものへの加工 ④ 話し合い活動の場面選定と意図の明確化 ⑤ 道徳的判断力と実践意欲を見取る振り返りカードの工夫 | ① 小1年「生きていることは素晴らしい」D-19 生命の尊さ ② 小2年「しっかり『仕事』をするのはなぜ」C-14 勤労、公共の精神 |
| 96 | 行政 | 学校支援課 | 本間 浩之 (指導主事) | 道徳 | 学び合い・かかわり合い 主体的な学び 発問 多様な考え | 道徳授業において、個々の内面的な葛藤や感動を、学級全体で話し合い共有する場を通して、更に道徳的な価値を高めていくことを目指している。 また、気付き高めた価値が、日常生活の中での実践意欲に繋がっていくよう授業を構成している。 | ① 資料提示の工夫 ② 資料への自我関与 ③ 子どもと子どもを繋ぐ話し合い活動 ④ 道徳的実践意欲 | ① 小5年「すれちがいの」 2-(4)謙虚・寛容 ② 小6年「割れた花びん」 2-(3)信頼・友情 |

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|-----|------|-------|---------------|-------|---|---|---|--|
| 97 | 1205 | 東山の下小 | 小林 厚司 (教諭) | 総合 | 学び合い・かかわり合い 問題解決 体験的な学習 考えの視覚化 | 「もの・こと・人」との出会いの時に、子どもに必要感をもたせ、持続的に活動に取り組ませていく。 どんな子どもにしたいのか、付けたい力を明確にし、「考えの視覚化」を中心に、子ども同士かかわらせながら、自分の考えを明確にし、問題を解決していき、自分自身の生き方について考えさせる。 | ① 付けたい力・育てたい子ども像の明確化 ② 問題解決学習 ③ 『もの・こと・人』との出会わせ方 ④ 子ども同士のかかわらせ方 ⑤ 考えの視覚化 ⑥ 必要感のある体験活動 | ① 小6年「ドリカムプロジェクト」 ② 小5～6年「みんなの上古町」 |
| 98 | 1310 | 万代長嶺小 | 若林 徹 (教頭) | 総合 | 学び合い・かかわり合い 思考力 表現力 問題解決学習 実践的・体験的な学習 考えの視覚化 その他(ICT活用、情報モラル) | 地域や日常に根差した課題を、児童同士、地域・保護者・専門家とかかわりながら問題解決的な学習を繰り返して解決する。 その過程で、学び方を身に付け、自己の生き方を考えることができるようにさせる。 また、一連の学習過程にICT活用を効果的に位置付ける。 | ① 地域や日常に根差した課題の設定 ② ICTを活用した情報の収集 ③ ICT活用とかかわりによる情報の整理と考えの高め合い ④ 考えをまとめ、発表 ⑤ 学習を振り返り、新たな課題の設定 | ① 小5年「知っていますか お米の秘密」 ② 小5年「栗ノ木川ルネッサンスプロジェクト」 ③ 小6年「明日の福祉を考えよう」 |
| 99 | 1315 | 笹口小 | 川村 孝樹 (教頭) | 総合 | 学び合い・かかわり合い 思考力 実践的・体験的な学習 | 私が目指すのは、「創造的知性」を身に付けた子どもを育てることである。それは、感性に裏打ちされたはがれない知性のことである。そのために、私は、体験を多く保障すること、体験から得た情報や思い・考えを再構成する場とを、繰り返し学習に位置付けながら、子どもが自ら活動を加速させていく姿を大切にしている。 | ① 社会参画の素地につながる主体的・創造的体験活動 ② 魅力ある地域材の開発 ③ 客観的データや資料等を用いた問いの喚起 ④ 思考ツールによる協働的学びのシステム化と可視化 ⑤ ファシリテーショングラフィック的手法による子どもの思考に寄り添った納得解や最適解への収束 | ① 小6年「ひとまちみらい～かめキャラGO～」 ② 小6年「わたしみらい～わたしマップ～」 |
| 100 | 1404 | 両川小 | 中村 康 (教諭) | 総合 | 主体的な学び 問題解決学習 実践的・体験的な学習 考えの視覚化 | 解決したいと願う問題に出会わせることで、子どもに自ら学習課題を設定させ、思考を働かせながら解決に向かわせる。地域のかかえる困難な課題にいかに出会わせることで、教師と子どもと地域の人たちとが本気になって解決をめざすことができる。 | ① 子どもの意識に沿った課題設定 ② 問題解決学習の展開 ③ 思考ツールを使った整理・分析の重視 ④ 様々な人との出会い ⑤ 息の長い探究活動 | ① 小4年「古町スイーツをアピールしよう！」 ② 小6年「夢プロジェクト～あなたの道・わたしの道～」 |

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|-----|------|---------|-----------------|-------|---|--|---|---|
| 101 | 1606 | 臼井小 | 岩名 玲子 (教頭) | 総合 | 学び合い・かかわり合い 主体的な学び 問題解決学習 考えの視覚化 | 子どもの身近な活動や体験から生まれた問いや課題をもとにPDCAのサイクルで継続的な活動に取り組ませること。その過程で自分の思いや考えを視覚化し、友達や地域の人々、専門家等と関わらせながら問題解決させるとともに、自己実現のための方法を考えさせていくこと。 | ① 子どもの身近な生活の問題を切り口にする。 ② 継続的な活動、PDCAサイクルの実践を可能にするフィールド(活動場面、活動場所)の設定 ③ 思考ツールを使った整理分析、思考の視覚化 ④ 地域の人々や専門家との交流・話し合い ⑤ 活動の学びとつなげて、自己の在り方や行き方を考える。 | ① 小6年「かがやけ未来へ」 ② 小3年「地域すてき発見！」 |
| 102 | 行政 | 地域教育推進課 | 竹石 一博 (指導主事) | 総合 | 学び合い・かかわり合い 主体的な学び 問題解決学習 実践的・体験的な学習 | 子どもの意識に沿った単元を構成し、子どもの知的好奇心を喚起する学習課題を設定する。 子どもの追求が連続・発展するために、子どもの考えにズレを生み出すような動き掛けを行い、ゆさぶりをかける。 また自分自身の思考の流れ・変化を認識させる。 | ① 知的好奇心を喚起する学習課題 ② 五感を通した具体的な体験 ③ 専門的な知識をもつ方のかかわり(ゲストティーチャー) ④ 考える視点を明確にする動き掛け ⑤ 視点を基にした話し合い ⑥ 自分の活動のよさの認識 | ① 小4年「プチヴェールを広めよう！」(地域活性化への参画) ② 小3年「一日店員に挑戦！」(地域の人のかかわり) |
| 103 | 1102 | 南浜小 | 阿部 勉 (校長) | 特別活動 | 学び合い・かかわり合い 思考力 主体的な学び 問題解決学習 | 主体的な学びを成立させるには、子どもたちに活動への切実感をもたせることが大切である。そのために事前の活動とその振り返りの場を重視する。ここで子どもたちの意識のズレを引き出し、議題化していく。 話し合いの場面では、目指す学級の姿や話し合いの目的を明確にし、論点を整理する。また、他者の不安や心配に着目させ、自分にも相手にもよい方法を探るよう促す。そうすることで納得の合意や納得の多数決に向かう子どもの姿を目指す。 | ① 「問題点の明確化」 ② 「意見一覧表の活用」 ③ 「話し合いカードの工夫」 ④ 「論点の整理と助言」 ⑤ 「納得の合意、納得の多数決に向かう集団決定」 | ① 小4年「もっと生き生き係活動」 ② 小4年「5年生になる準備をしようーあいさつ運動で学校をもっと明るくしようー」 |
| 104 | 1209 | 東中野山小 | 野澤 諭史 (主幹教諭) | 特別活動 | 学び合い・かかわり合い 主体的な学び 問題解決学習 実践的・体験的な学習 | 子ども一人一人に「なりたい自分」に向かう自己実現を図る力を育成するためには「目標」と「実践方法」の2つの意思決定をさせることが大切である。そのために、学級目標を根拠とする話し合いと対話を通したかかわり合いの指導に努める。 | ① 「絵に描いた餅」にならな学級目標の活用 ② 2つの意思決定(目標と実践方法) ③ 具体的実践につながる振り返り ④ キャリア・パスポートの活用 | ① 小4年「なりたい5年生へ」 学級活動(3) ② 小4年「あいさつプロジェクト」 学級活動(2) |

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|-----|------|-------|---------------|-------|--|---|--|---|
| 105 | 1303 | 鏡淵小 | 齋藤 航 (教諭) | 特別活動 | 学び合い・かかわり合い 主体的な学び 考えの視覚化 発問 多様な考え | 学級目標を基に自分たちの活動を振り返らせ、学級や自分の成長、課題を捉えさせる。その後の話し合いの中で、子どもの思いや願いを引き出し、学級で大切にしたい価値を焦点化していく。 互いの考えを認め合いながら、課題解決に向けたよりよい決定ができる学級集団を育てる。 | ① 学級の成長・課題の可視化 ② 具体的なゴールイメージ ③ 大切な見方・考え方に着目させる手立て ④ 互いの気持ちを大切に作る話し合い ⑤ 違う立場の気持ちを考えさせる発問 | ① 小1年「ハッピーサプライズ大作戦」(学級や学校における生活上の諸問題の解決) ② 小2年「広げようキャッチボールネットワーク」(望ましい人間関係の形成)」 |
| 106 | 1815 | 巻北小 | 大石 真裕 (教諭) | 特別活動 | 学び合い・かかわり合い 主体的な学び 問題解決学習 考えの視覚化 | 子どもが課題を自分事として捉えられるように、アンケートやノートを活用して実態把握をしたり、議題について自分の考えをもたせたりする。子どもの「学級をよくしたい」「こんなことをしたい」という思いを共有し、それぞれの意見のよさや違いを認め合いながら集団としての合意形成を図る。 | ① 思いや願いの共有と問題の意識化 ② 思考の可視化と構造化 ③ 不安や心配に寄り添った話し合い ④ 集団としての合意形成 ⑤ 活動や実践につながる振り返り | ① 小6年「学級力向上プロジェクト」(1)学級や学校における生活づくりへの参画 ② 小6年「ボランティアから生まれる新しい自分を見付けよう」 (3)一人一人のキャリア形成と自己実現」 |
| 107 | 行政 | 学校支援課 | 三條 貴之 (課長) | 特別活動 | 学び合い・かかわり合い 思考力 問題解決学習 実践的・体験的な学習 | 話し合い活動で、生活づくりについて考えさせ、子どもの問題解決力を高めていく。 生活づくりとは、子どもが学級や学校生活をよりよく、より楽しくするために、友達とかかわり合いながら生活上の諸問題を解決し、実践していくことである。 | ① 意見カードをまとめた意見一覧表を提示して論題を整理させる。 ② 意図的、段階的に学級の実態や子どもの思いを資料として提示する。 ③ 望ましい学級の姿や活動の意味をとらえさせ、「今の学級にとって大切なことは何か」を考えさせる。 ④ 話型「今の学級は～なので…がいい・なぜなら○○だからです」をつかい、自分の考えを再構築させて発表させる。 ⑤ 個と個での意見交流を行った後に集団決定をさせる。 | ① 小3～4年「すてきなあいさつを広げよう」 ② 小3～6年「児童会祭りを成功させよう」 |
| 108 | 1319 | 上山小 | 阿部 直子 (教諭) | 特別支援 | 学び合い・かかわり合い 主体的な学び 実践的・体験的な学習 評価 | 複数のアセスメントで把握した実態、生活年齢、更に将来に向けて必要な力などを踏まえ、課題を設定する。 集団の中でも個を生かし、子ども同士が互いに認め合えるような授業をつくる。 | ① 課題分析 ② 認知特性を生かした支援 ③ 主体的な活動 ④ 成功体験の積み重ね ⑤ 友達とかかわる場の設定 | ① 特1～6年 生活単元学習「トッキキ祭り」 ② 特1～6年 生活単元学習「料理の達人になろう」 |

マイスター一覧

| 番号 | 学番 | 所属 | 氏名 | 研究教科等 | 学びのキーワード | 授業で大切にしてきたこと | 授業の構想 | 代表的な実践例 |
|-----|------|-------|---------------|-------|------------------------|--|--|---|
| 109 | 2305 | 新潟柳都中 | 竹田 辰生 (教諭) | 特別支援 | 基礎・基本 かかわり合い 表現力 | カリキュラムに『絵画』、『粘土』、『工作』の3領域を設定して、幼児期からの制作におけるスキルを系統化し一覧表にした。 これを基に各単元で個々の生徒の目標や支援を考えて、生徒たちに楽しみながら様々な材料体験と「描くこと」「つくること」の喜びを味わわせる。 また、作品の良さを味わったり、作品を通して一緒に遊んだり作品を通してかかわり合う。 | ① 個々の生徒の実態に合わせた目標設定や支援 ② 五感を通して感じる材料体験 ③ 遊びの要素を含んだ活動 ④ 作品を通しての生徒同士のかかわり(鑑賞) ⑤ 障がいに合わせて道具や材料の扱い方の工夫 ⑥ パターンの獲得からオリジナルの制作へ | ① 中学部2年(社会生活年齢2～6歳程度)「粘土で遊ぼう～お団子ジャンプ～」 ② 中学部2年(社会生活年齢2～6歳程度)「季節を描こう～秋(稲の収穫のイメージ)～」 |

新潟市マイスター一覧について

「マイスター養成塾」とは

「児童生徒に学ぶ喜び・楽しさを感じさせる授業実践を行い、他の模範となる優れた教師力を備え、市民感覚に富んだ教師を養成し、新潟市の教育向上の取組に寄与することを通し、新潟市全体の教師力の向上を図る」ことを目的として、平成19年度からスタートした事業です。令和4年度末現在、125の方がマイスターとして認定されました。

認定されたマイスターは、総合教育センター・学校支援課での研修講座や各校の校内授業研修等、新潟市の教育向上の取組に参画しています。

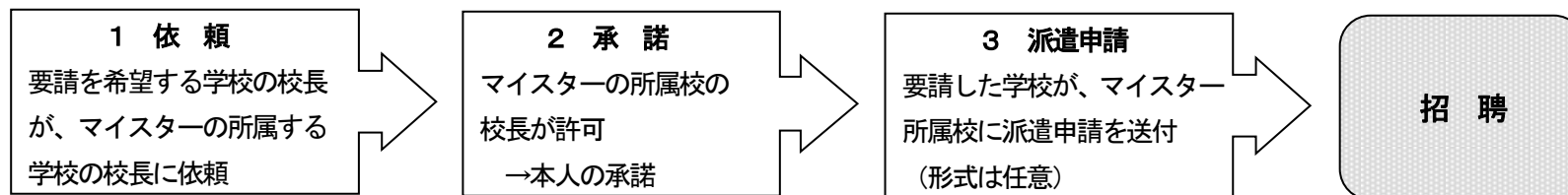
「マイスター一覧」について

優れた教師力を備えたマイスターが、市内各校での授業改善や学力向上の取組に資することを期して一覧を作成しました。マイスター所属校の校務が優先されることはもちろんですが、各校の研修等にマイスターの力を活かしていただきたいと思います。この「マイスター一覧」には、令和5年度の教師力向上の取組に参画できるマイスター（109人）の「① 学びのキーワード、② 授業で大切にしてきたこと、③ 授業の構想、④ 代表的な実践例」が示されていますので、ぜひご利用ください。

※ 附属学校勤務2名、市外勤務3名、大学勤務2名、退職等9名は、この一覧には掲載していません。

研修会等にマイスターを招聘するには

- ◇ マイスターを招聘する際の手続きは、以下のようになります。
- ◇ 旅費は、マイスター派遣を要請した学校の負担になります。



担当

総合教育センター

キャリアステージ 中堅研修部

TEL 0256-88-7444

FAX 0256-88-7517